

平成 28 年度国際協力報告会（東京地区）

平成 28 年 10 月 19 日、当国際ボランティア支援事業部の賛助会員並びに NGO 海外援助活動助成団体や国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた NGO の代表者やスタッフ、また一般の方々を対象とした第 22 回目の国際協力報告会を東京・秋葉原の「AP 秋葉原」にて開催しました。



初めに、海外の開発途上地域に対して、ODA（Official Development Assistance：政府開発援助）の実施によりその地域の発展に協力している独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部 市民参加推進課 主査の根本 乙様より、「世界の人のための JICA 基金」と題し、ご講演をいただきました。

JICA の NGO 連携事業である、「草の根技術協力事業」、「世界の人のための JICA 基金」、「NGO 等活動助成支援事業」、「NGO-JICA ジャパンデスク」をご紹介いただきました。「世界の人のための JICA 基金」については、2016 年度の活用事業、また、2017 年度の応募が 11 月より開始される予定であることをご説明いただきました。

次に、平成 28 年度 NGO 海外援助活動助成団体である、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドのベナン支部担当の田村 るみ様より、「世界の飢餓の現状と、ハンガー・フリー・ワールドの取り組み」と題し、ご講演をいただきました。

飢餓のない地域づくりを目的に、農業の生産性が低い、教育を受けられないなどの課題

に、現地の住民と一緒に取り組んでいっしやいます。人びとが自分の力で解決できるようになれば、支援は終了になるとのことでした。現在、ベナン共和国のベト村にある教室不足が深刻だった中高一貫校にて、教室の増築を行っている様子をご説明いただきました。

最後に、平成 27 年度 NGO 海外援助活動助成団体である、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の海外事業課支援者担当 眞屋 友希様より、「ラオスの少数民族の子どものための読書教材による教育改善事業」と題し、ご講演いただきました。

民話絵本や紙芝居の出版を行いながら、読書推進活動研修会などの活動をとおして、学校教育の改善に取り組んでいっしやいます。少数民族の子どもたちにとって絵本は、公用語であるラオス語を学習するサポートとなるだけでなく、想像力や思考力を養うこと、また外の世界を知る術にもなっていることをご説明いただきました。



昨年に引き続き、数校の大学に国際協力報告会開催の案内を置かせていただきました。今後も若い世代に NGO 等ボランティアの活動を知ってもらえるよう、続けていく予定です。

報告会終了後は、参加者の方々と意見交換会を行いました。援助活動を始めたきっかけや、現地の情報など、興味深いお話をたくさん聞くことができました。ご参加ありがとうございました。

来年も、より多くの方に参加していただけるよう、会を盛り上げていく所存です。